

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
<p>校則「高志深心」の理念を指針として訓育に努める。 「ステップアップ高志館」へ更なる成長を目指す</p> <p>① 学業の充実 ② 基本的な生活習慣の確立 ③ 生徒会活動・農業クラブ活動・部活動・ボランティア活動の活性化 ④ 信頼される開かれた学校の推進 ⑤ 専門教科の教育内容及び施設・設備の充実</p>	<p>○生徒が自らの可能性を信じ、更なる「成長」を目指せるよう、授業と部活動の充実に努め、生徒が力を試すアウトプットの間を多く準備する。</p> <p>○生徒一人ひとりが「自立心を育み夢の実現へ」邁進できるよう、生徒の「成長」を信じて可能性を引き出す支援を実践する。</p> <p>○時代とともに技術は変化するが、身につけた精神は生き方を支えることを理解させ、変化の激しい時代を生き抜くための人間力を身につけさせる。</p> <p>○先が見えない時代にあっては、常に考え・課題を解決する能力が備わっていることが必要であるとの認識を持ち、何をすべきかを考え、自らに与えられた課題や責任を果たすことで自信を持ち、自立しようとする気持ちを育む。</p> <p>① 危機管理意識の向上と徹底、生徒指導の充実 ② 学科プロジェクトの推進 ・園芸科学科・・・環境保全型農業プロジェクト ・環境緑地科・・・スクールパーク化プロジェクト ・食品流通科・・・学校ブランド商品の開発プロジェクト ③ 学力向上 ④ 希望進路実現100%の達成 ⑤ 生徒会活動や農業クラブ活動、部活動やボランティア活動の活性化</p>

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価					
① 危機管理意識の向上と徹底、生徒指導の充実					
領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
学校運営	○危機管理意識向上と安全対策	安全管理の意識をもって生徒指導に当たっているか。 現場に即した緊急マニュアルを策定しているか。	・事件、事故の未然防止や緊急時の報告、連絡の徹底 ・危機管理マニュアルを毎年見直す	・現状に即した危機管理マニュアルの改訂と伝達講習会の実施。 ・農業の取り扱いに関する研修会の導入。 ・避難経路の確認 ・不審者対策	生徒指導部 農場部 保健部
教育活動	○危機管理意識向上（生徒指導）	校則や交通ルールを守れたか。 危機管理意識を持てたか。	・部活動、実習等における事故防止の徹底 ・交通安全と自転車マナーの向上 ・防災意識の向上 ・防犯意識の向上	・各教科担当者における事故防止指導を実施。 ・学期に1回自転車点検を実施。 ・年間を通して計画的に各種講話を実施する。	生徒指導部
教育活動	●健康・体づくり	基本的な生活習慣を身につけさせることができたか。	・感染症予防の徹底 ・命の教育と性教育の充実 ・正しい食生活と健康管理指導の実施	・アンケートによる実態調査や食育講演会、家庭科の授業等で、食に対する意識を向上させ、啓発を行う。 ・糖分の多い飲料や炭酸飲料を控え、水、お茶、熱中症対策飲料等で水分を摂取を促すよう促し、日常生活習慣から変えていくように意識付けさせる。 ・エイズ講演会や性教育講演会を1回以上開催し、自己管理の大切さを学ばせる。次世代を担う人材であることの自覚を持たせる。 ・保健便りで、その時々々の保健の関する重要事項を生徒や保護者へ伝達し、啓発を図る。	保健部 家庭科
② 学科プロジェクトの推進					
領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
教育活動	学科プロジェクトは推進したか。	・生徒・教員がともに課題研究やプロジェクト学習に取り組み、生徒自らがPDCA（計画→実行→評価→改善）を実践できる能力を養う。	・各学科で1つ以上の研究テーマを掲げ取り組む。 ・生徒主体の研究活動の推進。	・農家や地域の身近な課題に目を向けた研究に取り組む。 ・プロジェクト学習に各学科職員全員が取り組む。 ・研究内容を客観的に評価するため、すべての研究成果について発表の場を設ける。 ・県運大会や各種コンテストに出場し、入賞を目指す。	各学科
	魅力ある専門教育を実施したか。	・生徒が自ら学べる実験実習等を導入する。 また興味関心を85%以上にする。	・専門教科に興味を持つことで地域の問題に目を向けることができる。	・専門性を高めるため、各種専門分野から外部指導者を招喚し、直にプロの知識や技術に触れることで、生徒の興味関心を高めるとともに、実験・実習の充実をはかる。 ・学科間を超えた実験、実習及び縦系学習など学科、学年を超えた魅力ある授業を展開する。	各学科
	校外・地域へ専門高校の魅力を発信できたか。	・各学科、地域を大切にしたい取り組みを企画し実践する。	・積極的にHP、学校だよりその他による情報発信を行う。	・3学科連携した生産物販売所の設置と模擬的な経営実践を月1回のペースで導入する。この取り組みにより、専門教育の魅力を感じさせるとともに、接客を通して地域の問題に目を向けさせる。 ・HPの更新や学校だよりの発行を月1回は実施し、学校の情報を発信する。	各学科 教務部

③ 学力を向上させる					
領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
教育活動	◎教職員の資質向上	毎時間、授業を大切に。 教育目標を明確にしながら授業に臨む。	・授業はチャイムからチャイムの真剣勝負 ・教師相互の授業研究による授業改善の推進	・公開授業を実施するとともに、校内外の授業参観や研修に1回以上参加する。 ・毎月、職員目標を提示し、教職員の授業に対する意識を高める。	教務部
	◎教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	教科指導を充実させるために教材研究（作成）の充実、教員のスキル向上を図る。	・ICTを活用した授業により、生徒の学習意欲や興味関心が高まった生徒の割合を70%以上とする。	・ICT機器を活用しやすい環境を整え、全教科において、ICTを活用した授業を実践、研究する。ICTに関する研修会を月1回は実施し、職員の意識と技術を高める。	ICT推進
	●学力向上	生徒の学習意欲の向上と自ら学ぶ力の養成 ・学習環境を整える。 ・基礎学力を向上させる。 ・基礎から応用へ発展的な学習に取り組む。	・学力向上ブチテストの実施、資格取得の推進 ・学習の場の整理整頓 ・教科に関連したコンテスト等への応募	・時間を守る「チャイムtoチャイム」の授業実践と定着を図る。 ・学力向上ブチテストを年20回、課題テストを年3回実施と学年会を中心とした事後指導の徹底と補習の充実。 ・デジタル教材Classiを活用した自主学習指導と定着を図る。	教務部 農場部
④ 希望進路実現100%の達成					
領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
教育活動	○進路実現	生徒の進路希望は達成できたか。	・ライフプランと進路希望の早期決定 ・心を磨く「高志館マナー検定」の実施 ・国立大学や学科関連大学への進学希望者に対する進路指導の充実	・進路講演会・ガイダンス等による進路啓発 ・マナー講座・マナー検定への積極的取り組み ・全職員による企業訪問と面接指導の実施 ・学年・学科・教科と連携した小論文・面接指導	進路指導部
	○キャリア教育の充実	キャリア教育の推進が図られたか。	・技を高める「資格取得」「インターンシップ」の推進 ・就農希望者を支援する「未来さが農業塾」の推進	・学科の専門性を生かした検定・資格取得のための指導（補習）や外部講師の実施。 ・就労意識を高めることを目的としたプロフェッショナルインターンシップの実施。 ・生徒の「未来さが農業塾」への入塾促進と具体的な就農計画の作成指導の充実。 ・マイスター制度を利用した専門技術指導の実施。	第2学年 農場部 各学科
⑤ 生徒会活動や農業クラブ活動、部活動やボランティア活動の活性化					
領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）
教育活動	●心の教育	生徒会・農業クラブ活動を通して地域に貢献しているか。 環境に配慮した取り組みがなされているか。 コミュニケーションは「挨拶から」を実践できているか。 生徒主体の取り組みができたか。	・生徒の自発的な地域社会貢献活動の推進とタイムリーな情報発信 ・エコハイスクールに向けた「ゴミゼロ運動」や「ゴミ分別」による「資源リサイクル」活動の推進 ・販売会など日頃の学習成果を試す場を活用したマナーアップの推進 ・さわやかな挨拶、相手を思いやる行動の実践 ・社会組織の役割を理解させ、誰もが役割を担っていることを実感する。	・18歳選挙権について関係する行事ごとに考える場面を作り上げることでのような意義があるかその都度考えさせる。 ・各学科専門性を活かした農業クラブ活動を強化する。全生徒が関わる行事を企画する。 ・職員意識を高めるため、農業部会等の情報交換会の回数を増やす。 ・JRC部、生徒会、農業クラブを中心に生徒へのボランティア活動の輪を広げる。 ・教師主導ではなく、生徒会等での自発的な活動が行われるように支援する。	農 ク 生 徒 会
	●いじめの問題への対応	思春期の悩みの向き合い方を指導できたか。 いじめ問題への取り組みを2回以上を実施したか。 生徒の動向の変化を観察できたか。	・思春期の悩みとの向き合い方を指導助言することはいじめや不登校などを未然に防止する。 ・全校生徒、職員のいじめに対する意識を高める。 ・生徒に対する情報交換を1日1回以上実施する。	・生徒指導による早い段階での生徒指導（新入生対象講話、PTA総会でのSNSの利用についての保護者への協力等） ・職員間の情報交換による問題行動の早期発見。 ・いじめ防止標語募集（年2回）の実施による生徒への意識付け。 ・保護者との情報交換（面談）の実施。	教育相談 生徒指導
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目（あれば記入）					
領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	担当分掌（部）

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目